

# ICOMOS



International Scientific Committee on Twentieth Century Heritage

出雲大社庁の舎（日本，島根県）

## プレスリリース

## 2016年9月9日

20世紀の文化遺産保護のための主要な国際組織の1つである国際記念物遺跡会議20世紀遺産国際学術委員会（イコモスISC20C）は、「出雲大社庁の舎」（島根県）が直面している切迫した状況について懸念を表明します。ISC20Cは出雲大社が建築家・菊竹清訓（1928-2011）の設計による極めて重要な本作品の解体を計画していると理解しています。

イコモスはユネスコの諮問機関を務める文化遺産保護のための国際的な専門家団体です。イコモスISC20Cは出雲大社当局に対して現在の解体計画を中止し、庁の舎の修繕と存続という選択肢について更なる検討を行うよう文書を提出しました。

イコモスISC20Cは、さらなる専門家の診断が行われれば、庁の舎の問題点を解消し、存続させていくための方策を見つけることもできると確信しています。当委員会は出雲大社当局に対し、日本の近代文化遺産に名を連ねる本作品の存続を目指すよう強く勧奨しました。イコモスISC20Cは、20世紀の文化遺産建造物についての実務的専門知識を持った国際的に有名な建築家と文化遺産の専門家で構成されています。彼らは協働して世界中の多くの難題に対処し、創造的で専門的な解法によってそれらを解決してきました。ISC20Cは、全ての関係者にとって納得のいく結果が得られるよう出雲大社に協働を申し入れています。

ISC20Cは、作品の完成後間もなく菊竹清訓が受賞した第15回日本建築学会賞（1963）、BCS賞（1965）、そして第7回汎太平洋賞（1964）を含む数多くの賞と共に、本作品の建築的な重要性が建築界から認められたことに注目しています。この建築家は伝統的な日本建築から影響を受けており、庁の舎は他の美しい伝統的神社建築のすぐれた引立て役となっています。

この作品の将来にわたる建築的な重要性は、2005年に日本を代表する重要な近代建築100選の1つとして出雲大社庁の舎を選定したドコモモジャパンのような文化遺産に関する学術組織からも認められています。歴史的な重要性だけでなく、本作品の建築的、芸術的な価値の高さについても疑いの余地はありませんが、しかしながらまだ十分な記録と考証が行われているとはいえません。ISC20Cの専門家は、解体のための理由は慢性的な雨漏りの問題であると理解しています。イコモスISC20Cは、この作品を神社にとって有用な存在として残し、維持していくためのより良い技術的解決策を模索するよう出雲大社に求めました。

President: 25 Cobar Street Willoughby, NSW AUSTRALIA 2068

[isc20c@icomos-isc20c.org](mailto:isc20c@icomos-isc20c.org)



ISC20Cは、近代文化遺産の管理における国際的に最善の方法を示した『20世紀の建築遺産の保存のための取り組み手法(マドリッド文書)』を近年発表しておりますが、これは庁の舎の将来についての方針決定の基礎となるでしょう。この文書はオンラインですぐに入手でき、和訳もされています。

<http://icomos-isc20c.org/sitebuildercontent/sitebuilderfiles/madriddocumentjapanesetranslation.pdf>



詳細についてのお問い合わせ先：

イコモス ISC20C 危機遺産警告小委員会 委員長 ガニー・ハーボー（アメリカ）

電話：+1 312977 0333 または +1 773 742 3754

イコモス ISC20C 専門委員 山名 善之（日本） 電話：09055726874

[isc20c@icomos-isc20c.org](mailto:isc20c@icomos-isc20c.org)

ICOMOS International Scientific Committee on Twentieth Century Heritage